



TOPICS 家族(家庭)の力は「生きる力」一ありのまま・あたりまえの姿を追求して

今回は、倉持好子さん(76歳)についてご紹介いたします。

倉持さんは杉戸町の農家に住んでいました。12年前まではお孫さんも含めて9人で暮らす大所帯で、正月やお盆などは、家族・親戚が50人近く集まる、賑やかな暮らしだったそうです。畑仕事をしたり、家事を行ったり、母親代わりでお孫さんの面倒をみたり「家族のために」と毎日忙しい生活を送っていました。

しかし、令和元年8月7日、脳梗塞で急に倒れ、手足の麻痺や言語の障害が出現します。病院に入院⇒春日部ロイヤルケアセンターの入所となり、3年間家に帰る事が出来ないまま、治療・リハビリの毎日を送っていました。

もともと「人の面倒を見る」事が役割だった倉持さんにとって、ロイヤルで介護を受ける生活は気兼ね・気遣いの連続でした。言語障害もあるため、自分から話しかけたり、スタッフに頼る事もなく、消極的な生活を送っていました。そんな倉持さんを見ながら、家族は「一度は家に帰してあげたい」と思っていたそうです。不安もあって、なかなか実現できていませんでしたが、スタッフの「頑張って家に帰ってみない?」の一言がきっかけで、令和4年1月に、2週間限定で自宅に帰る事を計画したのです。



家族にとって「介護」は初めての経験です。食事・入浴・排せつ(おむつ交換)・移動のすべてに介護が必要な倉持さんを、家族が介護するのは、身体的・精神的な負担を伴います。倉持さんも家族も、不安を抱えながらの受け入れでした。しかし、お孫さん(6人)が「介護もおむつ交換も負担ではありません。おばあちゃん孝行のため頑張りたい」と名乗り出してくれたのです。ロイヤルとして、家族への介護指導を行いました。実際の介護の方法(移動の仕方、おむつ交換の仕方)を実際に家族と一緒におこなったり、食事の食べ方・食べやすい食事のレシピ・口の清潔の保ち方など、書面にまとめて手渡したりしました。



3月30日、倉持さんは家族と一緒に自宅に帰りました。「おばあちゃんは家に馴染めるのか、家族はうまく介護ができるのか」など不安を抱えながらの帰宅です。しかし家に入った瞬間から、倉持さん・家族の不安は消し飛びました。そこには、3年前と同じように、冗談を言い合ったり、一緒にご飯を食べたり、同じテレビを見て大笑いする倉持さんの姿があったのです。介護は「家族みんなで」「一緒に」を心掛け、お孫さんも含め全員交代でおこなったそうです。介護を全員で行ったことで、家族全員が「おばあちゃんの居場所に戻って来られた」「おばあちゃん孝行ができた」と感じたそうです。

2週間後の4月16日、倉持さんは再度ロイヤルに帰ってきました。倉持さんは「家に帰れて良かった。また家に帰りたい」と発言が積極的になり、ロイヤルでの生活に新たな目標ができ、リハビリを頑張っています。

今回の取り組みで、倉持さんご本人・家族だけでなく、そこに関わったロイヤルも幸せを感じる事ができました。

- 「居場所」や「役割」を作る事… 日常の中にある幸運。言葉を超える支援。「そこにいる」事も役割
- 「家族もロイヤルもチームになって頑張る」… みんなが同じ目標や想いを抱いて頑張る
- 真の「在宅復帰」とは…「みんなが幸せ(HAPPY)になる」「人生を支える」「その人らしさを大切にする」「また家に帰ろうよ」と思える、言い合える支援をする事

など、今回の倉持さんの支援で、大切な事に気づくことができました。ありがとうございました。

倉持さんご家族からロイヤルに対して、感謝の言葉を頂きました

「施設ケアマネが『一度家に帰ってみない』と家族に勧め、背中を押してくれたので、今回の帰宅が実現できた」「ロイヤルのスタッフが『大丈夫?』『介護大変じゃない?』と何度も声をかけ、寄り添ってくれたから介護を不安なく頑張れた」「おばあちゃんが一緒に住んでいた昔を思い出し、楽しかった」

★リハビリ科★「移乗時に活躍するトランスファーボードについて」

今回は、車椅子やベッドの乗り移り(移乗)の際に活躍する「トランスファーボード」についてのお話です。

1階に入所されている古沢光子様は、入所時より足がうまく動かず、車椅子に乗り移る時は職員2人で介助をしていました。腹筋や両足の感覚が鈍く、力を入れる方法が分からなかったため、起きる事も上手くできず、日中はベッド上で過ごされることが多い状態でした。

リハビリとして、まずは、寝たまま足に力を入れる練習や、お腹に力を入れる練習を繰り返し行い、座る姿勢の安定を目指しました。つぎに、車椅子への乗り移り時に「トランスファーボード」を導入することにしました。ベッドと車椅子の間に「トランスファーボード」を置き、座ったままボードの上でお尻を滑らせます。すると、2人で介助だった乗り移り動作が、一人で行えるようになりました。

今では歩行器を使用して歩行練習をするまでに回復されています。このように、福祉用具や補助具を使うことで、ご自身でできる動作を増やすことが可能になります(介護者・家族の負担軽減にもつながります)。毎日の生活の中で大変だと感じる動作がある方は、リハビリ科までご相談下さい。



職員紹介のコーナー

氏名 米山雄太 フロア名 1F 職種名 看護師 血液型 B型 星座 おうし座 最寄り駅 七里

座右の銘 「相手の立場に立って考える」です。多種多様な多くの人と関わる仕事なので、迷った時はこの言葉を思い出すようにしています。

この仕事をなぜ志したか 平成23年に、アパレル(紳士服関係)に内定をもらっていたのですが、就職直前に東日本大震災が起き、内定が取消になってしまいました。「家族に迷惑はかけられない」と慌てて就職を探し、有料老人ホームで介護の道に入り3年間働きました。もっと専門的な知識を身につけたいと思い、看護師を目指し、春日部中央病院で看護助手を経て、看護学校に入り看護師を取得し、現在に至ります。

休日の過ごし方 コロナ前は、友人と飲みに行ったり、フェスにも良く行ってました(Official髭男dism、マキシマムザホルモンが好き)。今は自粛中でYoutubeを良く観ます。「おろちんゆー(虫を食べる動画)」や「キャブハイ(キャンプ動画)」を夜な夜な観ています(笑)



施設の行事・イベント・お知らせなど定期的に配信しています

春日部ロイヤルケアセンター

検索

介護老人保健施設
春日部ロイヤルケアセンター

住所:埼玉県春日部市藤塚2622番2
TEL:048(733)5771/FAX:048(733)5778



フロアより活動報告

♠1Fフロア♠『室内でお花見?!』

1Fの中庭では、色とりどりの花が咲き誇っています。

最近の一番人気は、**スタッフが用意してくれた「桜」**です！ フロアの窓際から花を眺めながら、ひなたぼっこをする利用者様の姿が多く見受けられ、ちょっとした**お花見気分**を味わっていただいております。

コロナの影響で、なかなかレクリエーションが出来ない状況ではあります、少しでも**季節を感じ**ていただければ幸いです。



◆2Fフロア◆『2月、3月誕生日会。明るく暖かい季節が訪れました♪』

フロア内に、桜の木や花びらを貼りつけ、**春を感じる装飾**を行いました。

暖かい雰囲気の中、『2月、3月誕生日会』を行い、対象の利用者様をフロアの皆様でお祝いしました。

おやつでは、**ケーキを提供**しました。『美味しい』『おかわり下さい』など、利用者様から沢山の声を頂き満足して頂けた様子でした。明るい季節感・雰囲気・笑顔があふれる、良い誕生日になりました。

コロナ禍のため、催し物があまり出来ない状況ですが、感染対策をしっかりと行いながら、日々の日常会話を楽しみ、**利用者様の笑顔を絶やさない**ように取り組んで参ります。



♣3Fフロア♣『春の陽気』

皆さんこんにちは！ポカポカと暖かい陽気に包まれて過ごしやすい季節になりました。

春と言えば「花見」です。しかしコロナ禍のため、「感染対策」「密を避ける」「春の雰囲気を味わえる」方法を考え、2つの形で花見をおこないました。

1つ目は、**利用者様が作った桜の前で写真撮影** 2つ目は、**ベランダにて桜の観賞** です。利用者様は「今年も桜が見られてよかったです」「いい気分転換になってよかったです」との声がありました。今後も皆様に楽しんでいただけるような催しものをできるよう、考えていきたいと思います。

これから夏が来ると思うとワクワクしますね。



♥ディケアフロア♥『ディケア春のリニューアル』

新年度が始まりました！ **職員紹介のコーナー**を新しく作りました。場所は正面玄関を入ってすぐの所です。職員各自、桜の花などをバックにポーズを決め、笑顔満開の写真となっています。

ディケアの中庭も開墾中です。種をまいたり花を植えたり、木を伐採したり…。すると、切り株をみた職員が、自由にアート作品を制作し始めました！？ ミニチュア・ジオラマ・はにわ・小人…？？など、あんなものやこんなものが増殖中！（職員の自己満ではなく、利用者様の笑顔に繋がると良いのですが…）

細かいことは気にせず、**作った人も見る人も楽しめれば良い**なと思っています (^_^;)

皆様も、ディケアの中庭に出て、作品の数々を探してみてくださいね♪

